



小中学生のための

能・狂言

鑑賞会

●能楽師のみなさんが
わかりやすく解説
●大人のみ参加も大歓迎です!

狂言のおはなし

「蚊相撲」
狂言鑑賞

おはなしのお囃子の



能のおはなし

能鑑賞
半能「熊坂」



日時 令和5年 3月11日 土 ●開場12:45 ●開演13:30 ●能楽鑑賞終演予定15:30

場所 豊田市能楽堂 (豊田参合館8階)

料金(税込)全席指定
大人 1,000円
小・中学生 500円
親子ペア券 1,000円
(大人1人と小・中学生1人)

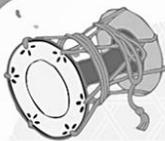
チケットの販売・お問合せ 豊田市コンサートホール・能楽堂事務室

☎ 0565-35-8200

インターネット予約 <https://www.t-cn.gr.jp/>

<チケット発売日> 1月14日(土)~ 午前10時より発売開始

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※公演の内容が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください
※友の会割引はありません。



「蚊相撲」
狂言鑑賞

おはなしの
狂言の
鑑賞

●能楽師のみなさんが
わかりやすく解説
●大人のみの参加も大歓迎です!

鑑賞会

能・狂言

小中学生のための

おはなしの
お囃子の



能のおはなし
半能「熊坂」
能鑑賞

令和5年 3月11日 土

●開場12:45 ●開演13:30 ●能楽鑑賞終演予定15:30



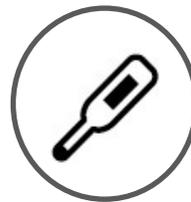
豊田市能楽堂 (豊田参合館8階)



◆感染症予防へのご協力をお願いします◆

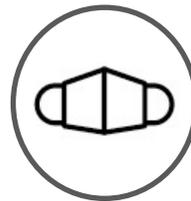


体調不良の方はご来場をお控えください



37.5℃以上の発熱のある場合は

入場をお断りします

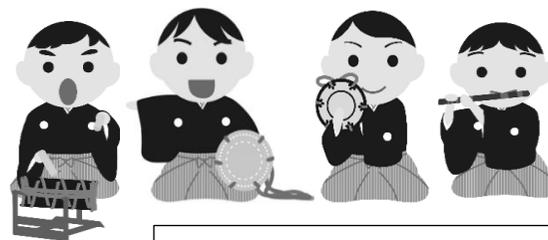


場内ではマスクを着用してください



手指のアルコール消毒や手洗いを

お願いします



またきてね!

なまえ

小中学生のための
能・狂言
鑑賞会

NOU・KYOUGEN
番組

※当日の進行により、時間は前後する事が
ありますので予めご了承ください。

午後一時三十分
狂言のおはなし

午後一時四十分
狂言(和泉流)

蚊相撲

シテ 大名 鹿島 俊裕
アド 太郎冠者 井上 松次郎
蚊ノ精 今枝 郁雄
後見 佐藤 友彦
井上 蒼大

NOU・KYOUGEN
曲目解説

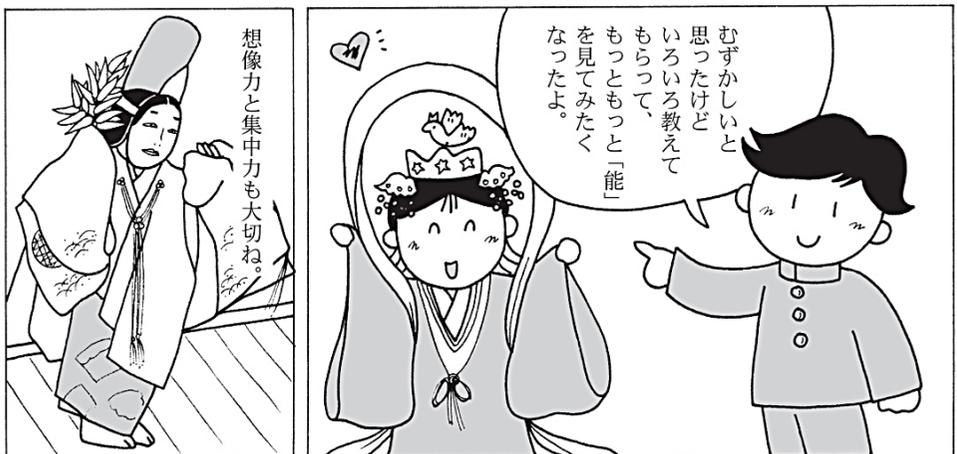
蚊相撲

相撲が流行した頃、ある大名が「よい相撲取りを見つけてこい」と家来の太郎冠者に命じました。太郎冠者は通りがかりの男に声をかけて大名のもとに連れて帰ります。実はこの男、人の血を吸うために都へ来た蚊の精だったのです。そうとは知らず相撲を挑んだ大名は…。

血を吸いたい蚊の精と吸われたくない大名のコミカルな戦いに注目です。



能はむずがしくないよ



君の感性が試される!

『おいしいかどうかは、食べてみなくちゃわからない』
 かまえないで、まず素直に見よう。映画・テレビとちがって、ちょっと不親切だと思うだろうけれど、解説を読んだり、お話を聞いて、自分の感じたこととあわせて、さらに想像力を働かせてみよう。
 きれいだな、いい感じだな、かわいい!
 なんかすこいな
 きっとそんなところが見つかるんじゃないだろうか。自分でやってみると、また違った面白さが見つかるかもしれない。なにしろ六〇〇年も続いたきたんだから、なんかあるはずだね。
 Oh NO!なんて言わないで。

午後一時十分
お囃子のおはなし

休憩

午後一時四十分
能のおはなし

午後一時五十分
半能(宝生流)

熊坂 シテ
ワキ

熊坂	内藤	飛能
旅僧	飯富	雅介
笛	山村	友子
小鼓	後藤	嘉津幸
大鼓	河村	裕一郎
太鼓	加藤	洋輝
地謡	衣斐	正宜
後見	和久	莊太郎
	平田	正文
	石森	智幸
	衣斐	愛
	松浦	祥子

終演予定 午後三時三十分

熊坂

美濃国赤坂(今の岐阜県)を通りかかった旅のお坊さんが、村の人から昔この地を騒がせた大盗賊「熊坂長範」の話聞きます。

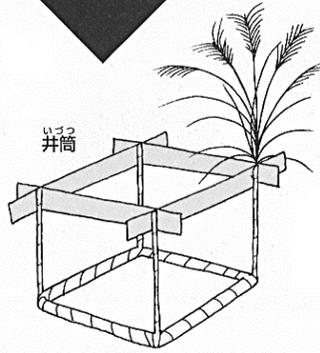
盗賊の親分だった熊坂は、大勢の盗賊たちと旅の商人から財宝を奪おうとしました。ところが商人と一緒になっていた牛若丸によって返り討ちにあい、死んでしまったのです。その夜、お坊さんが熊坂の霊が成仏できるようなお祈りしていると、そこに熊坂の幽霊が現れて…。熊坂は長刀を持って登場し、牛若との戦いを再現します。舞台上を所狭しと動きまわる熊坂の奮闘をお楽しみに。

※半能とは一曲の能の後半部分(後場)を演じることです。

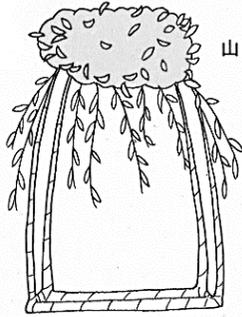
作り物

「作り物」

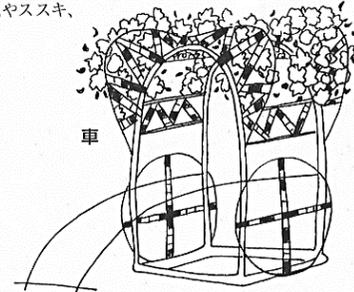
舞台装置のこと。竹と布の簡素な作りで、その度組み立てて舞台に持ち出します。能の内容によっては、花やススキ、木の枝なども使います。



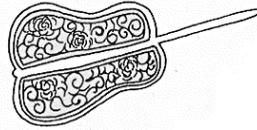
井筒



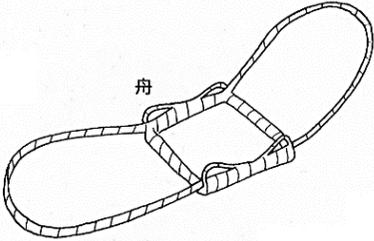
山



車



唐団扇



舟

能面

「能面」

能は主役が役柄にふさわしい面をつけて登場します。弁慶など現実的な男の役で面をつけない場合も、表情を出さず、顔を面のように扱います。



▲童子
永遠の美少年の面
「枕恋童」「天鼓」など



老年の静寂な心を表す面
「杵屋」「頼持」など
▼姥



◀ 増
高貴な女性や天女の役に使用される
「江口」「羽衣」など



▶ 般若
恐ろしさとともに悲しさを表す女性の鬼の面
「婆土」「道成寺」など

はじめての能と狂言

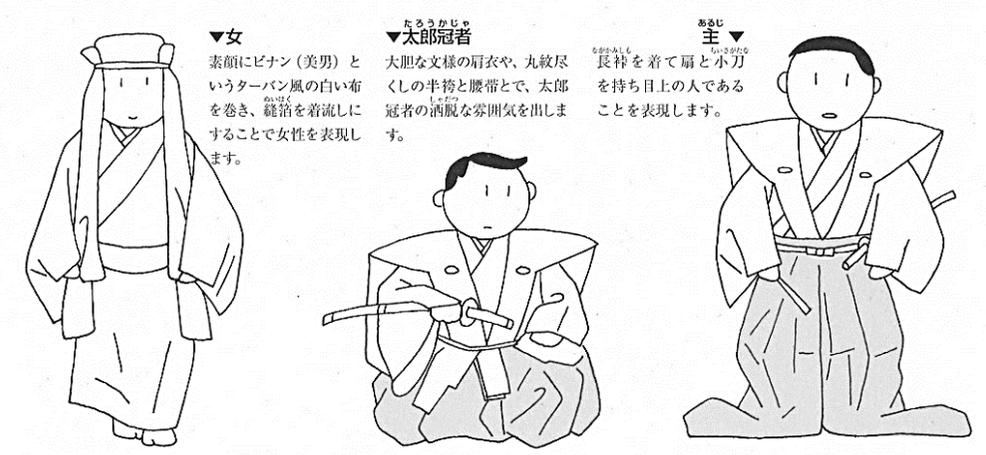




能の装束



狂言の装束



能の役者って?

ワキ方

主人公(シテ)の相手役がワキ方。ふつう最初に登場して場面の状況設定をし、シテを舞台に引き出します。シテを生かしながら、物語を進めていく大切な役です。ワキ方は三流あります。



シテ方

「能」の主人公(シテ)だけでなく同伴者(シテツレ)も演じます。セリフや歌の部分は「シテ」として文章に独特のメロディーをつけて謡います。又、地謡(=コーラスの部分)や後見(=舞台での小道具の受渡し等)など多くの役割がシテ方の仕事になっています。シテ方は観世、宝生、金春、金剛、喜多の五流あります。



はやし 囃子方

能の囃子は単なる伴奏ではなく、情景に合わせて盛り上げたり、雰囲気をつくります。楽器の演奏以外にも忘れてはならないのが打楽器の演者がかける掛け声。タイミングを合わせるためだけでなく気分を大事にしてください。



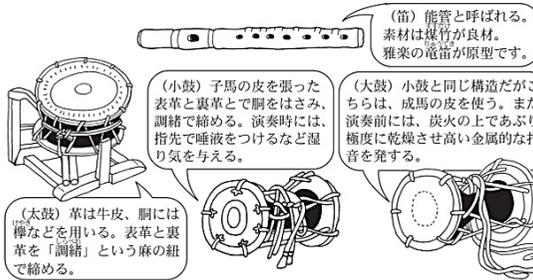
狂言方

「狂言」は狂言方が分担します。又、能のなかのアイ(=前半と後半のつなぎで物語の内容をわかりやすく語る役)もします。通常の公演は、能、狂言…のように交互に演じられます。狂言方は和泉、大藏の二流あります。



はやし 囃子で使う四種類の楽器

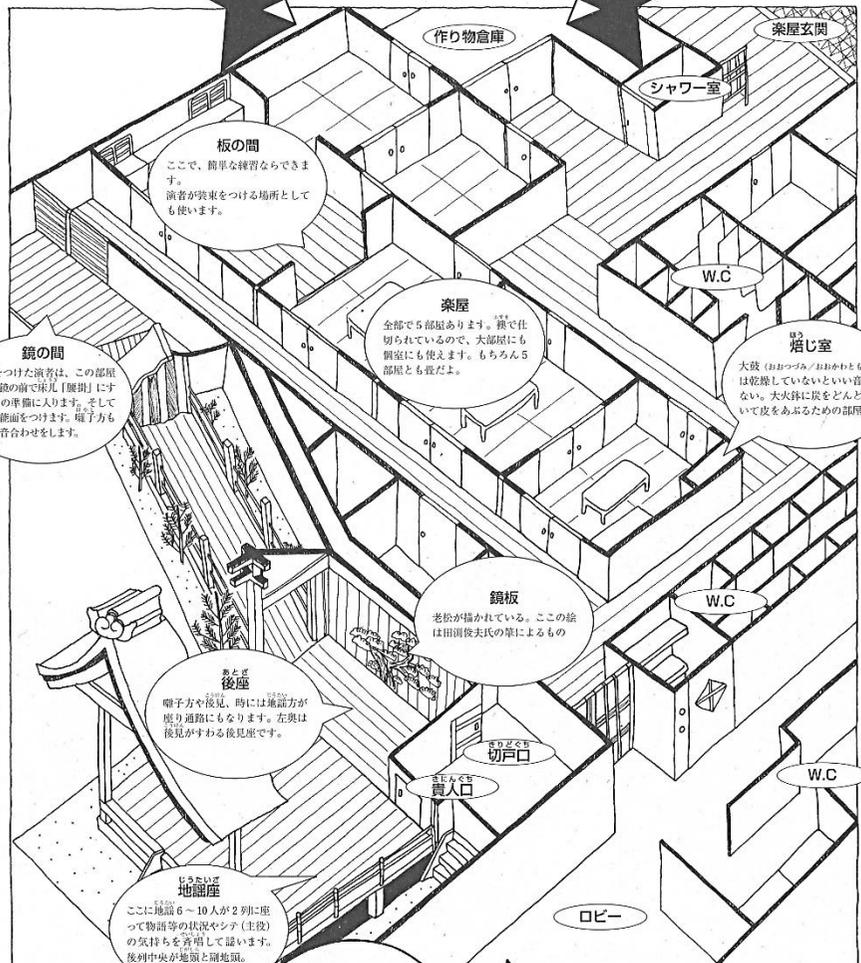
能の楽器は「笛」「小鼓」「大鼓」の四種類。(この四種類の楽器が上記の順に各一名の構成で並びます。) それで四拍子と呼ばれます。(太鼓は曲目によっては入らないこともある) 四つの楽器それぞれ二〜五流(合わせて十四)あります。



お稽古の基本がおなじものもあるけど… それぞれの役は修業の過程からコースが違うよ。そして舞台では専門以外のことはしません。



豊田市能楽堂の舞台裏!



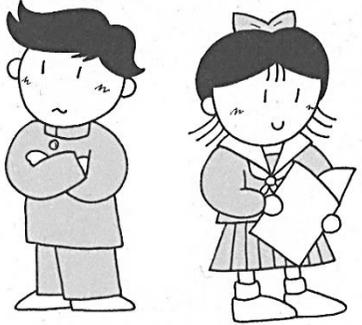
いろんな部屋があるんだよ。

※このページは楽屋中心に紹介してあります。舞台は別ページにあります。

楽屋ってどんなところ？

ほう 焙じ室

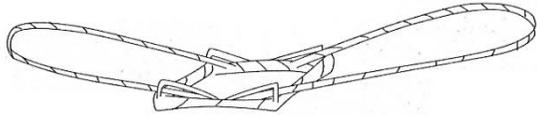
楽屋の奥に大きな火鉢が置いてある部屋があります。これは炭火で大鼓の皮をあぶって乾燥させるための専用の部屋です。(大鼓は乾燥していないとよい音ができません。)



開演の2時間ほど前に出演者が楽屋に入ります。それぞれの役の準備をします。最終的な打合わせをし、服装を整え準備に手ぬめりがないか確認します。
楽屋は演者にとって大切な場所です。

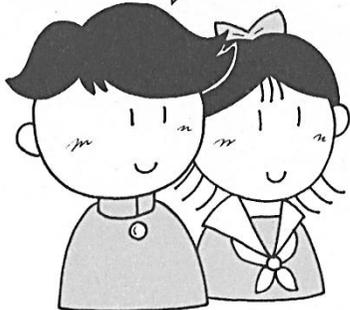


作り物



楽屋の奥では、公演で使う小道具をそろえたり、作り物「簡単な装置」を作る作業が始まっています。基本的にはシテ方が演能のたびに作成して解体します。

精神統一する
とても大切な
ところなんだね。



鏡の間

開演前には装束(能・狂言の衣装)をつけたシテ(主人公)は「鏡の間」の鏡の前で床几(=腰掛)にすわり心の準備に入ります。そして能面(おもてといひます)を押し戴いて敬意を払ってからつけます。

面をつけるには自分をすべて能面に押し込めるといふ気持ちで……じっと精神集中して能の世界に入っていきます。そして揚幕(あがり)が上がり橋掛り(はしかけり)を通過して舞台への登場となります。



能と狂言って どこがちがうの？

写真を見て！1は能の一場面、2は狂言の一場面だ。ずいぶん違った感じがするね。

狂言に出てくる人たちは、お金持ちや大名や、その召使い、お坊さんや小僧さん、失業者や泥棒、詐欺師、強い奥さんと弱い旦那、といった人たちだ。いばっていても実はおく病。物おぼえがわるくて、すぐ忘れる。両手をしばられていてもなんとか工夫してお酒を盗み飲みする。お使いが嫌で、鬼に化けて主人を脅かそうとする。つまりどこにでもいそうな人たちだ。有名な人などほとんど出てこないし、たまに出てきても笑いのものにされてしまう。

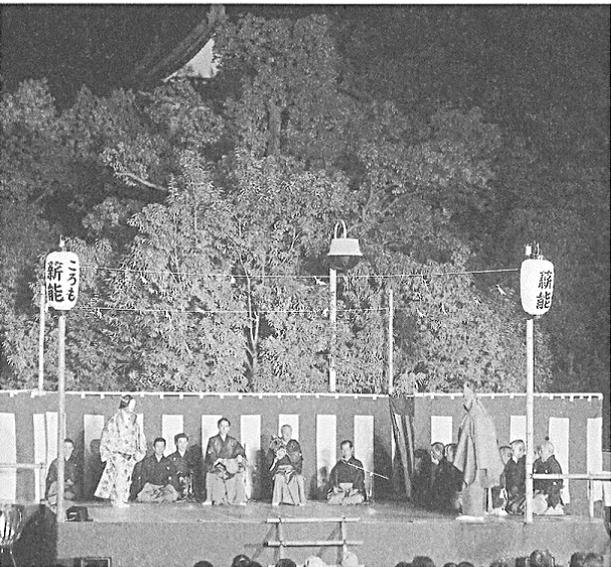
一方、能の登場人物は、義経や弁慶、小野小町や光源氏のような有名な人や美女、子供が行方不明になって悲しむ母・龍神・鬼神・狐の精霊などさまざまで、テーマも『船弁慶』のような有名な話だったりする。美しい衣装、歌や舞、そして楽器による伴奏がつく、洗練された芸術的な内容なんだ。

こうしてみると、能は音楽的な要素の強いドラマ=一種のミュージカル、狂言はセリフで話をすすめる楽しい喜劇ということになる。能の公演ではこの二つが順に上演されるから、お客さんはすぐれたドラマとコメディを楽しむことができるんだ。

600年以上も昔から続いてきた能・狂言。外国の人たちからも高く評価されている。研究している外国人の学者もたくさんいるんだ。うんと日本的だからすごく世界的、うんと古いからとっても新しい。ちょっと不思議な芸術、それが能・狂言なんだ。



これが能舞台だ!!

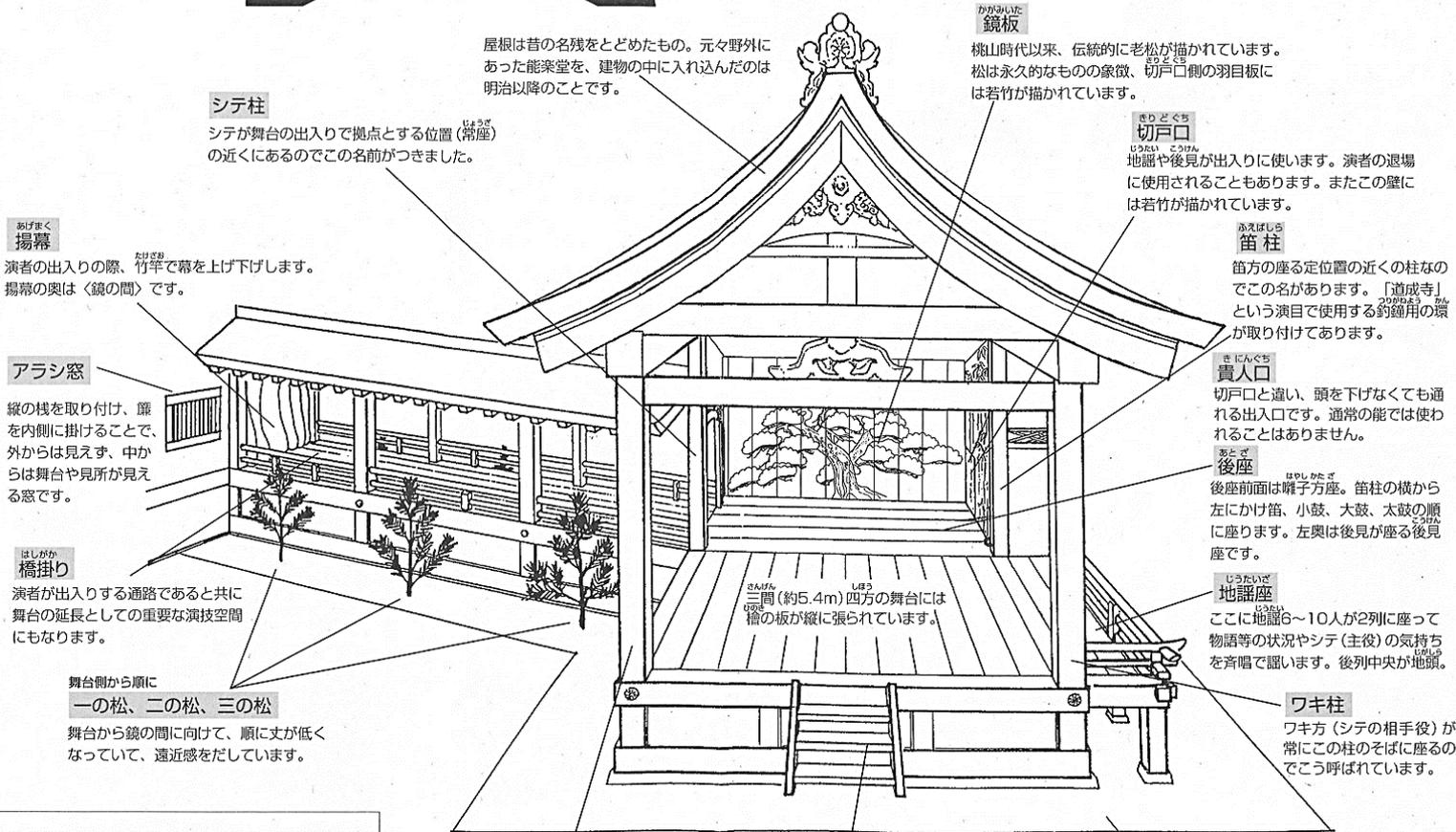


夏に各地で開催される「新能」野外に舞台をつくり、傍らでかがり火をたき、自然の中で行われます。

豊田市能楽堂の特徴

能舞台は観客席（見所）に張り出しているのが特徴で、演じる人と観る人との距離が近く、親しみがあります。

能舞台が現在のようになったのは桃山時代（豊臣秀吉の頃）ですが、この豊田市能楽堂の舞台もその頃の雰囲気を生かそうとしています。



屋根は昔の名残をとどめたもの。元々野外にあった能楽堂を、建物の中に入れて込んだのは明治以降のことです。

かがみいた
鏡板

桃山時代以来、伝統的に老松が描かれています。松は永久的なもの象徴、切戸口側の羽目板には若竹が描かれています。

きりどくち
切戸口

地謡や後見が入りに使います。演者の退場に使用されることもあります。またこの壁には若竹が描かれています。

みえばしら
笛柱

笛方の座る定位置の近くの柱なのでこの名があります。「道成寺」という演目で使用される釣鐘用の環が取り付けられています。

きんにくち
貴人口

切戸口と違い、顔を下げなくても通れる出入口です。通常の能では使われることはありません。

あとざ
後座

後座前面は髷子方座。笛柱の横から左にかけ笛、小鼓、大鼓、太鼓の順に座ります。左奥は後見が座る後見座です。

じょたいざ
地謡座

ここに地謡6~10人が2列に座って物語等の状況やシテ（主役）の気持ちや音声を斉唱で聞きます。後列中央が地頭。

ワキ柱

ワキ方（シテの相手役）が常にこの柱のそばに座るのでこう呼ばれています。

シテ柱

シテが舞台の出入りで拠点とする位置（常座）の近くにあるのでこの名前がつけました。

あげまく
揚幕

演者の出入りの際、竹竿で幕を上げ下げします。揚幕の奥は「鏡の間」です。

アらし窓

縦の棧を取り付け、簾を内側に掛けることで、外からは見えず、中からは舞台や見所が見える窓です。

はしかか
橋掛り

演者が出入りする通路であると共に舞台の延長としての重要な演技空間にもなります。

舞台側から順に
一の松、二の松、三の松

舞台から鏡の間に向けて、順に丈が低くなっていて、遠近感をだしています。

さんげん
三間（約5.4m）
しほう
四方の舞台には
櫓の板が縦に張られています。

めつけばしら
目付柱

能面をつけると、演者の視野は極端に狭くなります。演者は舞う時に、この柱を目印の一つとします。

きざはし
階

昔、寺社奉行が舞台開始を命じる時、舞台上がるのに使ったと言われています。現在は使われていません。

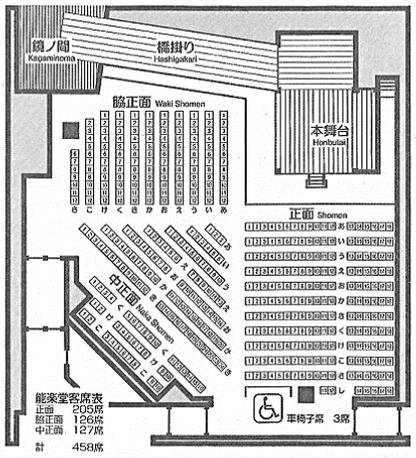
しらす
白州

屋外で能が行われていた頃の名残で玉石が敷かれています。

能の見所



能の観客席（見所）と言います。正面、脇正面、中正面の三方から取り囲んでいます。正面席は一般に好まれるよい席。脇正面は通の好む席。中正面は目付柱で少し視野がさえぎられますが、能の立体感を見るのによい席です。



Q1：能っていつできたの？

A：奈良時代に中国大陸から伝わった散楽（軽ざ、曲芸、物まねなど）と呼ばれる芸能が起源とされています。その後、室町時代の初期に観阿弥、世阿弥親子が舞台芸術として完成させました。

Q2：なんで屋根があるの？

A：もともと能は神社やお寺の建物で演じていて、お客はその周りから見ていました。その頃の雰囲気を残すために室内の能楽堂でも屋根があるのです。

Q3：なんで松の絵なの？

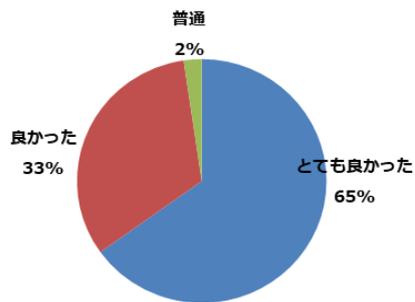
A：神社やお寺で能を演じていた頃は、舞台の後ろには境内などに生えている木が見えていました。それを再現するため、緑起が良いとされる松が描かれているのです。

令和5年3月11日（土）

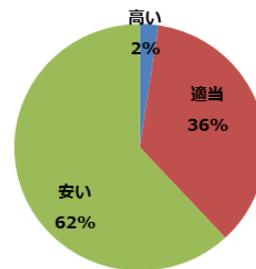
小中学生のための能・狂言鑑賞会

来場者数	271
回答数	44

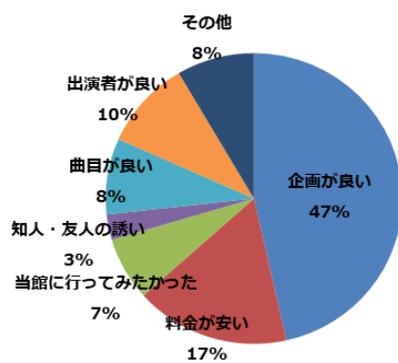
1. 本日の公演はいかがでしたか？



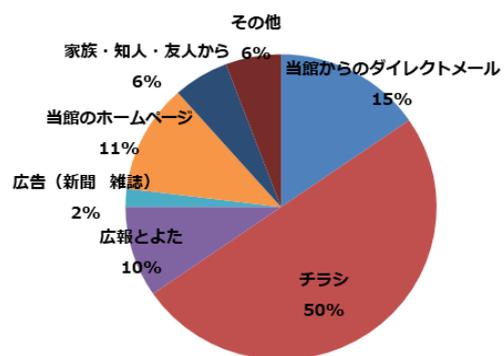
2. 料金設定は内容に見合うものでしたか？



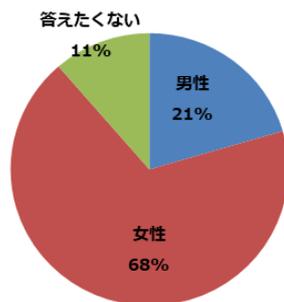
3. 本日の公演はどのような理由でご来場ですか？



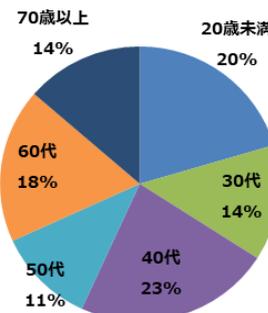
4. 本日の公演はどのような手段でお知りになりましたか？



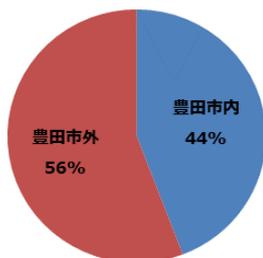
5. 性別



6. 年齢



7. どちらからご来場ですか？



公演についての感想や、ホールに対してのご意見・ご要望などをお聞かせください。（抜粋）

いつも勉強になる企画に感謝しながら参加しています。これからも続けてください。

能・狂言の説明をしていただき勉強になりました。に良かった。

狂言の蚊がいない所がおもしろかったです。能の場面を想像できて楽しかったです。
なかなかない機会を得られてよかったです。

私もおはやしをやっていますが、能楽堂のおはやしは、すごくかんじました。

狂言、囃子、能の解説も分かりやすく（短時間でポイントを押さえて）、狂言では子どもたちの笑い声も出て楽しく見られているのがよかったですと思いました。

能狂言に興味があったが、ハードルが高く行きづらかったが、解説をしてくれたおかげで楽しく見る事ができた。

もっと早くにこういう公演を観たかった。

また小学生や子ども向けの能や狂言を開催してもらえたら嬉しいです。

おもしろかったです。

狂言がよかったです。

お囃子のおはなしが良かった。演奏？が良かった。お囃子だけ聞くのに集中し素晴らしいと思った。

子どもたちのリアクションがおもしろかったです。ブーンって真似したりしてました。

狂言、すごく面白かったです。能はパンフレットにある通り、ミュージカルでした。色々聞き取れませんでした
が、面白かったです。

初めて狂言を見ましたが、何とか内容も分かり、楽しめました。能は、セリフがよく分からず難しかったですが、お

狂言、お囃子のお話がとても分かりやすく、話上手でとてもよかったです。狂言の「蚊相撲」は、とても楽しく見
せてもらいました。能は想像しながら見ました。おはやしもすばらしかった。

はじめての観劇ですが、分かりやすく解説して頂き、楽しく見る事ができました。お囃子や所作が素敵でした。
拍手のタイミングが分からなかったです。

初めてのため、説明がしっかりあり良かったです。

初めて見ましたが、子供とくるには安い料金でよかったです。

解説がとても分かりやすかったです。半能の長さも良いと思いました。